

受講番号 19043 学校名 大方高等学校・定時制 氏名 廣井 幸子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1・2年生 生徒数 11名
科目名 英語Ⅰ 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 Surfing English CourseⅠ

クラスの様子・特徴

1・2年生の混合クラスである。生徒のレベルにかなりの差があり、アルファベットを書くことが難しい生徒から高1レベルは理解ができる生徒までさまざまである。出席状況、授業態度に課題のある生徒もあり指示が通りにくい。

問題の確定

学力差・出席率・授業態度と全てにおいて、個々の違いの大きいクラスではあるが基礎学力をつけてゆきたい。

予備調査

A 授業の観察

継続した学習経験のない生徒が多く、既習事項をすぐに忘れてしまう傾向がある。単語シートを作成し、振り返りの時間を作ってみたが学習用具を取り出すことに時間を費やしてしまう。学習を進めることよりも生徒を取り残さずに理解を促してゆく必要がある。

B 生徒による授業評価

7月末アンケート結果「アイ・シャドウイング、スラッシュ・リーディング、シャドウイングは学習の役にたっていますか」に7～8割の生徒が役立つとの答え。学習に対する質問には8割弱は好意的な回答。授業の雰囲気が生徒のやる気に直結している意見も多い。

C 学力データ

前期中間試験平均67点。前期期末試験67.9点と平均的な数字ではあるが、アルファベットが全部書けない生徒が若干名。中学校で既習の動詞の活用などが身につけている生徒は2名程度。学力差が大きい。

リサーチ・クエスション

生徒一人ひとりの学力が大きく違うクラスにおいて、どのように授業展開をすればListening / Speaking / Reading / Writing の基礎学力を引き上げることが可能であろうか。

仮説・実践・検証

仮説1

授業の始めに違う形態(アイ・シャドウイング、スラッシュ・リーディング、シャドウイングの3段階)で繰り返し音読練習をおこなえば、スムーズに英語の音に馴染みナチュラルな音読ができるようになるのではないかと。

実践1

学習進度がゆっくりなので音読の回数も多いが表現することが苦手な生徒が多いので、授業中に実際に音声にだして練習する生徒は11人中2名。しかし、心の中で参加している生徒はかなりの数ではないかと思われる。

検証1

発音、イントネーション、意味の区切り等をチェックポイントとした。実際に音声を出して参加した生徒には、明らかな変化が見て取れた。各単語を読もうとせず、フレーズで読む。音声のリエゾンが自然にできている。それゆえに2・3の単語の発音が正確ではない語があった。「聞く」だけの作業に参加した多くの生徒からは、音読への大きな変化は見られなかった。

仮説2

ペア音読・ペア活動を導入すれば、反復練習や生徒同士の教えあう時間が持て、授業の活性化につながるのではないかと。

実践2

ワークシートを使用しペアで答えを考えさせる。オードリーについて知っている情報を出し合い、分からない部分には想像力を働かせ答えをださせる。ペア発表させる。単語の定着を図るために単語ワークシートを作成し、ペアで発音・意味の反復練習を行なう。授業者対生徒だけではなく生徒間で授業展開を図る。

検証2

ペア学習は数回の授業で運用困難であることが判り、修正することになった。授業への欠席・遅刻が頻繁にあり前後左右の生徒がいない。欠席により、前回のワークシートの記入がない。他者とのコミュニケーションを取るの難しい生徒がいる。基礎学力にもかなりの差がある。等の理由から展開が難しく行き詰ってしまった。途中から生徒同士のペア学習はやめ、ワークシートを使用しながら、テンポよく教師の質問に生徒が答える方向に変え反復学習を行った。

仮説3

スラッシュごとに文意の理解を促し、全員で訳してゆけば個々の学力差の違いがそれほど授業の流れに影響されず、全体にとっての学習の満足感につながるのではないかと。

実践3

1文ずつ板書して全員でスラッシュ訳を行なうことは生徒の焦点を絞ることができていることが実感できる。基礎単語力が不足して訳が難しい生徒であってもシートに書き写すことで授業に参加できる。単語力が向上するに比例して、質問に対して即答できる生徒が増えていることを授業の中で実感できる。

検証3

パート1のスラッシュ訳を2時間に分けて行なった次の日に、ワークブックを使用して日本語訳を1文ずつ板書して生徒にあてて答えさせた。この2年間でなかなか学習が身につかず、答えることが難しかった生徒がヒントを与えながらではあったが、一人で受動態の文章を訳すことができた。単語ワークシートによる反復学習とスラッシュ訳、その訳を書いてゆく等の細かい作業の結果ができた。個人作業の量を増やすことが重要であることが検証できた。

研究の成果

音読に実際に参加した生徒の1名の読みの中には変化が見られ、目標であったナチュラルな音読に近づいたことが授業者としては大きな喜びであった。ペア学習に関しては、単語ワークシートを活かして反復学習を進めるにつれて、生徒が即答できることが多くなり、反復学習＝定着であると実感した。スラッシュ訳の作業は単語の定着を前提とするため、単語力と比例してスムーズに行うことができるようになった。

今後の授業改善の課題

出席状況に課題のある生徒が多い状況では、多くのプリントを生徒が常に携帯する、授業の中で使いこなす作業が最初は非常に難しかった。数名の生徒にはそのこと自体が大きなストレスであったことが伺われた。しかしその時期を乗り越え、現在は定着しつつあることを感じる。授業への参加状況自体を上げることはできなかったが、少しずつ授業密度を高め、諦めず全員参加型の授業形態を継続してゆくことが課題であると思われる。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

0880-43-1079

電子メール